



# 街道の歴史を物語る 町並みが残るふるさと



この道を  
南にゆけば  
やがて伊勢



武佐宿の町並み



ムシャリンドウ

武佐学区は、近江八幡市の南に位置する地域で、東西を国道8号、南北に国道421号が交差する交通の要となっています。古くは南北朝時代より東山道の「駅家」として、江戸時代には中山道の宿場町「武佐宿」として栄えました。江戸時代の名所図会(浮世絵風景画)にも「木曾六十九次中山道武佐宿図」として描かれています。武佐宿は中山道と八風街道の交通結節点にあたり、武佐宿の交差点を中心に約1kmにわたって、伝統的な町並みが続いています。近年は街道の風情も減りつつありますが、残された歴史的な地域資源を住民が大切に守っています。

## むしゃりんどう～近江八幡市 初夏の花～

「武佐(武者)竜胆(ムシャリンドウ)」はシソ科の多年草の花で、その種が国内で初めて蒲生郡武佐村(現近江八幡市武佐町)で発見されたことに由来します(諸説あり)。武佐学区まちづくり協議会のシンボルマークは、ひらがなの「む」に、ムシャリンドウの花と、豊かな農村地帯の米俵をデザインしたものです。

## 武佐のまちづくり

武佐学区まちづくり協議会は、平成21年4月に発足しました。基本理念として「みんなのまち 夢作り まちづくり」を掲げ、地域住民が参加し交流を進めながら活動を推進しています。平成29年3月には、防災機能を備えた新コミュニティセンターが竣工し、新たなまちづくりの期待が増えています。今後は、まちづくり協議会を軸とした各種専門部会の活動を活性化させ、魅力ある武佐学区を構築し、学区内外に発信して、地域交流や世代間交流の場を提供していきます。そのため、歴史的な地域資源や特産品を活用するなど、地域住民が自ら参加したくなる事業を展開し、まちづくり協議会の活動に関心を持ってもらうことを目指しています。



武佐コミュニティセンター



りんどうウォーク

むしゃりんどう展(本陣跡)

## むしゃりんどう展とりんどうウォーク

地域の歴史・文化を継承し、愛着あふれるまちをつくる取り組みの一環として、毎年6月に武佐町会館、武佐宿脇本陣跡を主会場に、学区全町9会場で「むしゃりんどう展」を開催しています。期間中には、展示会場を巡る「りんどうウォーク」も実施し、たくさんの住民が参加しています。



## 中山道（なかせんどう）

江戸時代の五街道の一つで、江戸・日本橋を起点として京都に至る街道です。古代における畿内と東の内陸部をつなぐ東山道（とうさんどう）を改良したもので、比較的険しい山道が多い一方、東海道のように川越えなど水による困難がほとんどないため、女性の道中に好まれ、姫街道とも言われています。また、将軍吉宗の時代には、ベトナムから来た象が通ったとの記録もあります。近江八幡市内では老蘇、武佐、馬淵学区を通過しており、古くからの街道として、今でも古い家並みや石の道標がその名残をとどめています。

本マップは、中山道で繋がり、同じ街道文化を持つ武佐学区と老蘇学区が、コミュニティセンターを拠点とした住民主体のまちづくり活動を協働して展開していく「中山道ネットワーク事業」の取り組みで作成しました。



作成年月：平成 29 年 3 月

作成者：近江八幡市総合政策部まちづくり支援課

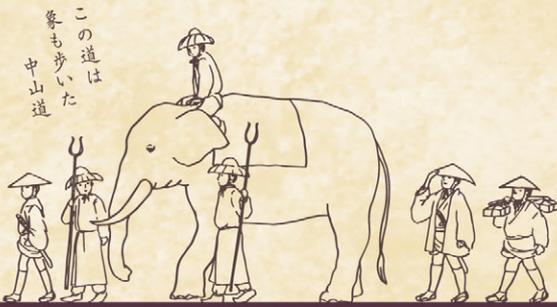
〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町 236 番地 TEL: 0748-36-5552 FAX: 0748-36-5553 E-mail: 010406@city.omihachiman.lg.jp

作成協力：武佐学区まちづくり協議会 〒523-0012 近江八幡市武佐町 764 番地 TEL:0748-37-6017 E-mail: musa-cc@zc.ztv.ne.jp

老蘇学区まちづくり協議会 〒521-1332 近江八幡市安土町東老蘇 1136 番地 1 TEL:0748-46-8120 E-mail: oiso-cc@za.ztv.ne.jp

表紙写真：武佐の町並み（左）、老蘇の町並み（右） 裏表紙写真：野田町のコスモス畑（左）、教林坊庭園（右）

# 武佐・老蘇 よもやま案内



中山道がつなぐ 2つのふるさとマップ



# 老 おいそ 蘇

## 古来の森と山がつくる 緑豊かなふるさと



老蘇学区は、3,000人弱の人が住まう、織山(きぬがさやま)、箕作山(みつくりやま)山麓と三方を山に囲まれた自然豊かな田園地帯です。集落は山麓沿いや田園部、また旧中山道沿いに形成されています。

国道8号に沿って創業された工場地帯と、優良農地と先進的な集落営農を営む区域とが共存し、良好な景観を形成しています。平成の始めから住宅地が開発され、新しい住民の方を交えた『まちづくり』活動は、新・旧の住民で構成される融和の学区を目指しています。



十三仏土空切

奥石神社



### 老蘇のいわれ

伝説によると、かつて老蘇の地は水が湧き、とても人の住む地ではないほど荒廃していました。そこで石部大連(いしべのおおむらじ)という老人が祈願し木を植えると、たちまち生い茂り、大森林となりました。大連は齢百数十を超えてもなお壮年をしのぐほどであったため、「老いが蘇る」の意で老蘇の地名となったと伝えられています。この由来をもとに、「生命の渦巻く水と成長の木々」の姿が、老蘇学区まちづくり協議会のシンボルマークになりました。

### 老蘇のまちづくり

老蘇学区まちづくり協議会は、平成24年4月に発足し、「地域に『つながり』と『出会い』を」をコンセプトに住民総参加のまちづくりをスタートさせました。平成26年10月には、防災機能を併せ持つ『老蘇コミュニティセンター』が完成しました。いま、老蘇学区は災害に強いまちづくりを目指し、防災活動や人々のつながりを大切にした地域交流の事業活動を実施しています。

老蘇のまちづくりは、「自ら考え、自ら行動する」ことで、住みよいまち、愛着のあるまちを創造するための住民活動です。「一人でも多くの人に、まちづくりに関心をもってもらえる」、「参加者が楽しいと感じてもらえる」、「老蘇を訪れる人が魅力を感じてもらえる」そのようなまちづくりを目指しています。



老蘇コミュニティセンター

### 老蘇「ふるさと絵屏風」

老蘇のふるさとの原風景は、60年の時を経た今も往時の風情を残しています。そのような当時の生活から過去に忘れてきた大切なもの、置いてきてしまった大事なものを探し出し、持ち帰る多くの入り口がこの「ふるさと絵屏風」の中にあります。「ふるさとの大事なコト」をよく知り、大切に守って欲しいという制作に参加された方々をはじめ地域の方々の願いが込められています。この絵屏風からふるさとカルタが制作され、小学生のふるさと学習や地域で活用されています。



ふるさと絵屏風(左)とふるさとカルタ(右)

